

兼続と秋の上越探訪

中野区

小田切松枝（北城町出身）

北城高校同窓会に出席の折、当時の会長の勧めによりJネットに入会いたしました。仕事の関係でサロン、その他の行事にも参加出来るようになりましたが、このところ皆様と会う機会が多くなりました。

秋の旅も今回で三回目の参加です。「ただ、たかだ」の駅員のアナウンスは今はない。しかし今も長野から妙高山を仰ぎながら古里に帰るのが大好きです。いつしか妙高号は、居心地がよく落ち着く列車となっているようです。

浄興寺

十一月八日（日）午後一時直江津駅集合 総勢二十一名。早速荷物をバスに積み、最初の目的地である寺町の浄興寺に向かう。折りしも菊花展の最中、踊漕橋を渡り菊のアーチを潜り、両側に丹誠さ

れた菊を鑑賞しながら本堂の方に行く。

本道前には懸崖仕立の菊が出迎えてくれる。戻って左側に曲ると聖人御本廟前に十月桜が昼月に溶けるような色合で私を迎えてくれる。しばし至福の時をただく。

ガイドの方に「ご苦労様です」と挨拶すると「どこから来なされたね」と「東京から」「まあ遠い所からありがとさん」と絶え間なく話し掛けてくる。いつの間にか引き込まれて方言で会話している自分がいる。懐かしさの中にくすぐったい気分させられました。

浄興寺については、皆様もよくご存知の事と思いますが、ここ寺町には六十三ヶ所のお寺があるそうです。また浄興寺は新潟県内で最大の寺で東本願寺派の寺院として栄えましたが、昭和二十六年浄興寺派として独立し本山となりました。



小田切さんと親像像

本堂に続く第一日輪
戻りきて十月桜もういちど

滝寺不動尊 毘沙門堂

山間の道を車を走らせ滝寺へ、滝寺と毘沙門堂に関しては、会報二七号に掲載されましたので、ご存知と思います。随所から湧き出ている水、囲りの物はなべて苔、苔、「さざれ石の巖となりて苔のむすまで」を思い出す。水が水押し滝となり、落下した水は流れとなり、長い長い旅の始まり、人生も又旅、とそんな思いがふと心を過ぎる。毘沙門堂は、更に急坂を登る。戦勝祈念というより、今は旅の無事を祈念して坂を下る。

山粧う中、くわどり湯つたり村を目指して車を走らせる。

日かげりて彩りを深めし秋の流
神の鈴ふれば団栗またひとつ



湯つたり村

十一月九日（月）

朝食に、ひとりの女性が携わって下さいました。その古里訛りの喋りが心地よく、ふと私の心の中に祖母を感じた。この山の景色と同化されていて、光り立つ新米と共に、私の中では十二分にかっこよかったです。

生国は越後と答ふ温め酒

岩殿山 明静院

八時三十分出発 本日の最初の見学地・岩殿山、明静院に向う。入口には道標と石に銀杏の木がある。足に自信のな

人は車で、私はハイキング気分、秋風と道端の花を愛でながら登って行く。登りつくと、天台宗・五智国分寺、奥の院がある。本堂を拝見させていただく。そこには、行基の作と寺伝されている木造大日如来座像が安置されている。境内には大国主命と奴奈川姫の子である、建御名方命が誕生したという岩窟や、上杉謙信の供養塔がある。寺の右側に花芽をつけた枇杷の木を象徴するかの様に私の目を捉える。

豪雪の時の暮しは大変ではと考えながら山を下る。次の見学地居多ヶ浜記念堂へと向う。

秋蜘蛛のとりことなりし道標
思惟仏に母のまなざし枇杷の花



居多ヶ浜記念堂

承元元年、専修念仏の教えが弾圧され、京都より越後国府に配流となった親鸞が

ここから上陸したと伝えられる。居多ヶ浜を見下ろす高台の上に展望台が整備されている。展望台の奥には、親鸞の上陸を記念して建てられた居多ヶ浜記念堂、親鸞の像が安置されている。ここは地元的女性達で運営されている様で、当番の人が見学者の案内をする。お茶をご馳走になると話しがとても長くなり、席を立つのに苦労する所です。越後七不思議の一つ「片葉の葎」が見られます。浄興寺にあった「八房の梅」も七不思議の一つということをごこで解りました。

秋蝶の影ひきてゆく見真堂
越後路や片葉の葎に風の寄る



天・地・人博

NHKの大河ドラマに合わせた会場で。入口で若武者姿の案内人の説明を聞き、関の声を揚げ、毘沙門堂入口より入場する。ドラマに登場する役者、セツト、小道真等の紹介である。写真を見ながら進む。「あの時の場面ね」と楽しそうな会話が耳に入る。私は戦国の世の女達の生き様に思いを馳せる。

関の声木霊返りか賜高音



直江津、ホテルハイマート内「多七」で昼食。旅の前半は解散となる。

苗名滝

後半の旅、一時直江津出発、冠雪の妙高山を仰ぎながら紅葉真っ盛りの中、妙高高原・苗名滝を目指す。ここは馴染みの滝です。別名「地震の滝」。遊歩道が

整備されて逆に滝まで遠くなった様な気がしました。滝の前の吊橋の真中に立ちしばらく目瞑る。滝の鼓動が私の胸中を震わせる。ここに在る総ての物を呑み込んで轟音を残し流れ去って行く。私は黙し、ただそこに立っている。

吊橋を渡るバランス雁の棹
山紅葉つなぎ吊橋渡りけり



いもり池

十日の予定になっていた池の平いもり池を散策する。周囲五〇〇メートルほどなので一周するのに大した時間はかかりません。湖面に写る妙高山が最高のスポットなのでしょう。今日は生憎のお天気で妙高山もご機嫌斜めのようにした。紅葉の中に点在する白樺林を垣間見ながら「あかくら荘」に到着。

池の面に逆妙高山や破れ蓮
高原の風の意のまま枯れど



いもり池のさかさ妙高

十一月十日(火)

岡倉天心史跡記念六角堂

朝食前に、岡倉天心像を見学することにする。七時に待合せ、藤沢さんのガイドで登りはじめ。冠雪の妙高山を眼前に、日の陰の側道には雪が残っていて風が冷たい。取り留めのない話をしながら行くと次第に汗ばんでくる。ふっと目を上げると景色が変化している。木々が裸木となつてすっかり冬支度だ。丁度その境目に六角堂があった。先月見た、谷中の天心像と思ひ比べる。

野尻湖と二茶記念館

予定に入っていない野尻湖と二茶記念館を見学することになる。九時二十分野尻湖着。ここは、斑尾火山の溶岩流による堰止湖。湖底よりナウマンソウの化石が出土。ここで湖を背に記念撮影。次の目的地一茶記念館に着く。

「九輪草四・五輪草で仕廻り」の句碑に出迎えられる。記念館は一茶の生涯をたどりながら貴重な一茶作品を見ることが出来る。柏原宿の様子や、一茶に関する資料なども展示されている。十一月十九日は一茶忌で全国俳句大会が柏原で行われています。私も一句投句箱に投函いたしました。一茶旧居跡は宿場の大火災で類焼し、十一月十九日焼け残った土蔵で六十五歳の生涯を閉じました。今では、一Kでしょうか。

自然と、小さな生き物をこよなく愛した一茶。この柏原で生を受けたことが一番よかったのかも知れません。人間は土に根を張って生きることが何より大切だと、そうすることによって色々な物が見えてくると、そう一茶は語っているのかなと思ひながら車中の人となった。途中道の駅で休憩をとり一路最後の見学地である鮫ヶ尾城跡へに向う。

行く秋や湖面をすべる風の色

行く秋や一茶忌近き柏原

紅葉舞ふ一茶土蔵の一つ窓
冬の蛸日のある方へ黄泉みえて



一茶記念碑の前で

鮫ヶ尾城と勝福寺

私はこの城の名前を初めて聞いた。景勝と景虎が後継をめぐって景勝が勝つたとその程度の知識しかなく、負けた景虎がどうなったかはあまり知らなかった。先ず上杉景虎公供養碑と上杉景虎公石像のある勝福寺に行く。この寺の住職である老翁が杖に身を委ね、景虎のこと、御館の乱のこと、それにまつわる諸々のこと、多分祖先からの口碑であろう話を砥

のごとく口調で語りかける。そして私の胸の中に刺す様に食いついて来る。思わず空を見た。平和な秋の空だった。辛うじて泪が落ちるのを防ぐことが出来た。供養碑と景虎公石像に手を合せた。さぞかし小田原に帰ったかったのではと、二十六歳で逝った凛々しい景虎公に別れを告げた。寺の右門際に夫婦仲良く手をつないだ道祖神に出会った。少し気持を和けることが出来た様な気がした。現在も四月二十九日に法要が行われている。住民の心の深さ、やさしさに感謝しつつ寺を後にした。

身に入むや妻太りにりしき武者の像
行く秋や道祖神は石の手をつなぎ



勝福寺

鯨ヶ尾城遺跡

上杉謙信の死後におこった御館の乱では、上杉景勝と家督を争って敗れた上杉景虎が、相模国小田原に逃れようとして、当城に立ち寄ったが、城主堀江宗親の裏切にあい、ここで自刃した。城は景勝の持ち城になったが、景勝の会津移封ののち廃城とされた。頂上の本丸跡からは高田平野を眼下に妙高や日本海まで一望することができそうです。この辺り史跡公園に整備され「ひだ歴史の里」となっていて広場、野外炉、釣り堀などで楽しめるところです。帰郷された時ぜひ足を運んでいただきたいと思います

斐太の秋昔むかしが新しく
死の重み生きてる重み秋日燦あざ

中食処「三恵」

全行程を無事に終り、秋色の古里の中昼食会場仲町の「三恵」に着く。盛り沢山のご馳走にお腹、心とも大満足「来年も逢いましょう」を「さようなら」の言葉代りに解散。

冬に入る旅の終りの鮎三昧あざなまい



今回の旅は、良い天気恵まれただけでも最高。空澄み、水澄み、空気澄み、ふるさと何処をとつても紅葉、々、々。冠雪の嶺と裾濃き紅葉の妙高山は最高。山眠る前の山粧うを、まのあたりにした私は幸せ。食事も盛り沢山、おいしいので全部平らげる。身体に優しいメニューに感謝、そして美味、新米の匂いと光たつご飯に「おかわり何ばいぬ」？ 文句なくおいしい。宿もよし。湯つたり村では実家に帰った様な感じ。方言の喋りが耳にやさしく心地よい。妙高山を眠間の宿に満足、この景色と自然を詠み妙高山ファンを増したい。部屋もゆつたりとして居心地がよい。尚二晩とも、食べ、飲

み、歌い、語らひ和気藹藹と時を過ごすことが出来充実した旅を経験させていだきました。
盛り沢山の見学地の設定にもかかわらずスムーズに見学出来たことをうれしく思います。参加者の年齢と体力を考慮して時間の調整をされたのでしよう。それには入念な下準備があったことと思います。和久井会長、幹事の中村真和さんに厚く御礼申し上げます。



あから荘で



浄興寺の菊花



浄興寺で



滝寺不動尊



毘沙門堂



湯ったり村の宴会



湯ったり村カラオケ大会





いもり池の三美人



湯ったり村で



苗名の滝



苗名の滝入口



あくら荘での宴会



あくら荘での宴会



野尻湖畔で



カラオケ大会

ありがたきかな ふるさと

昭陽市 佐藤光子（東城町二出身）

この度の「秋のふるさと交流会」に、私の友人の参加を快く受け入れていただき、感謝致しております。

二人とも去年『運の花コンサート』に行き、運の花を觀て清里の山莊京ヶ岳に泊ったのでした。夏の景觀のあれこれ、越後の人の温かさに出会ってすっかり上越が気に入り、「今度機会があったら、是非秋の里山を訪ねたいわね」と言っているのを聞いておりましたので、好機とばかりにお願いした次第です。

今回の訪問地も精選されていて、謙信所縁の史跡巡り、「ゆつたり村」と赤倉の宿泊、苗名滝、一茶の里、いもり池などの散策に紅葉も楽しめて、魅力満載のコースでした。

各所での風物はもちろんですが、二人には、皆様の温かい歓迎が一番心に残った様子で、私からも重ねてお礼を申し上げます。

げます。

花を觀て寄りて香を利く菊花展

あはあはし古刹の庭の冬桜

冬桜今日が觀（ろと口ぐちに

錦秋を巡りて宿に深眠り

走り根の道躰かす冬の滝

新しき筵の匂ひ一茶の忌

眠る山まること映しいもり池

煮るための無花果を買ふ道の駅

未だ推敲しなければならぬ句ばかりですが、お陰様で今回のふるさと訪問の感動を残す事が出来ました。

晩秋の上越

八王子市 早野冬木

この度は、上越ネットワークの秋の交流会の旅行に、佐藤さんの友人ということで、参加させていただき、ありがとうございます。佐藤さんの誘いに、軽い気持ちで便乗したのですが、新潟出身でないのは関根さんと私だけで、特別参加だったことを後で知って大変恐縮しました。

三日とも天気に恵まれ、もう終りかなと思っていた紅葉も、かえてその色合いに深みを増して、山里の秋は、さながら原田泰治の絵を思わせて、懐かしく心にしみるものでした。こうして筆を走らせている今も、ゆつたり村の朝霧に包まれたのどかな風景や、男性的で迫力満点だった「苗名滝」が浮かんできます。宿も、二か所とも、とても気持ち良く、食事も美味しく頂きました。

この旅で、晩秋のひっそりした山里の空気を存分に味わい、そして思いがけずリッチな旅を楽しむことができたことを、大変嬉しく有難く、遅ればせながらお礼を申し上げます。

最後になりましたが、幹事の皆様には、本当にお世話になりました。改めて厚く御礼を申し上げます。

遠く来て越後の寺や枇杷の花

冬木



左より早野さん、佐藤さん、関根さん

佐藤光子さんから、今回の旅へお誘いを受けた時、並でないご縁を感じました。と、申しますのは過去三度上越を訪れ、その都度新しい発見のある街に、「又、必ず」という夢が現実となったからでした。初回は桜の季節、高田城址の栄華を映すお濠に夜桜の妖艶な美しさは今も臉に浮かびます。二度目は、蓮の花満開のお濠、気高く凛とした姿をカメラに収めました。三たび花の季節、城址公園での吟行会、その折佐藤さんに案内して頂いた、雁木通り、警女の宿、謙信公縁の地、林泉寺、など。

そして四度目の旅は、直江津から始まりました。菊まつりの浄興寺、山門に掛けられた菊のアーチが珍しく、更に参道に見事な菊の鉢の数々が秋を満喫させてくれました。高田町には、六十七ヶ寺を数えるとは驚きでした。次の見学地「滝寺不動」は後日知るところにより、会報二七号に詳しく掲載されておりますので、割愛させて頂きますが、滝への径を辿り近づくにつれ、確かに靈気を感じました。

今夜の宿「くわどり湯ったり村」に着いたのは暮早い季節、心温もる灯りに迎えられました。それぞれ入浴の後の楽し

み、宿の心尽くしの会席膳に舌鼓を打ち、美酒に酔い、楽しく、和やかな時が流れてゆきます。この頃になると、メンバーの方々の華々しい前歴など少しずつ知るところとなり、自分は何と場違いな処にいるのかと、身の縮む思いでおりましたが、紳士淑女の皆様は大変謙虚な方々で、初参加の者にも隔てなく接して下さいました。

翌朝は、岩殿山明静院へ息も切れんばかりの長い坂道を登り、神聖な地へ近づくにつれて、心が澄み神話の世界へ誘われます。大日如来坐像へ頭を垂れ、ご情緒を伺いました。下山の途中鈴生りの柿や木の実など愛でる余裕も出てきました。

息継ぎの胸突き八丁まゆみの実 絢子
御館跡では、勝福寺ご住職の上杉景虎にまつわるお話を拝聴し、鮫ヶ尾城址公園へ。青空の下、真っ赤な桜紅葉に景虎の流した血涙を想わずにはいられません。

景虎の無念の桜紅葉かな

絢子

次に、「日本の滝百選」の苗名滝へと移動。バスを降りれば、轟音が耳を、身体を突いて来る。その滝へもつと近づき

たくて、ごつごつした道をひたすら進む。暫く行くと一茶の句碑に出会う。

「滝けぶり側で見てさへ花の雲」 一茶
大瀑布を目前にして、人間の叡智を超えた自然の作り出す景観に一茶もさぞ驚いた事でしょう。触発されて私も一句

冷まじや天地揺るがす大瀑布 絢子

マイナスイオンを全身に浴び疲れも忘れて、二日目の宿「あかくら荘」へ。趣のある落ち着いた雰囲気心身ともに癒され、明日の旅の楽しみを胸に安らかな夜を迎えました。

限りある紙面を拙文で汚してしまいました。

皆様のご好意により、上越の旅を堪能させて頂きましたことに、心から感謝致します。最後に「上越ネットワー」の益々のご発展をお祈りいたします。



苗名の滝



苗名の滝と一緒に



一茶記念碑の前で